

Q2：学年の目標や内容を2学年まとめて示した教科については、どのような点に注意して計画を立てればよいのでしょうか。

2学年まとめて示した意義

A： 小学校の学習指導要領では、国語、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育の各教科、また、社会科の第3学年及び第4学年については、学年の目標及び内容を2学年まとめて示してあります。これは、学校において、地域や学校及び児童の実態に応じた創意工夫を生かした指導を一層可能にすることを意図したものです。

つまり、今回の教育課程改訂のねらいの一つである「各学校が創意工夫を生かした特色ある学校づくり」を推進するための大きな柱となるものといえます。

その意味でも、各学校においては、児童の実態を的確に把握し、2学年という期間を見通した上で指導内容を重点的に取り上げ、基礎・基本の定着を図ることが重要です。

計画を作成するときの留意点

実際に計画を作成する段階において注意すべき点は、各教科の特性を十分に留意して計画を立てることです。

《配列の工夫例》

(1) 児童の実態、
地域や学校の実態に応じて、一つの内容を一方の学年で指導する。

(2) 素材・題材を変えて、いずれの学年でも繰り返し指導する。

(3) 2年間の中で、随時又は長期的に指導する。

このように、2学年を見通して発達段階を考慮しつつ、効果的、段階的になるように配列することが大切です。

その際、指導内容が広がりすぎて児童生徒の負担が過重にならないようにすることに留意する必要があります。

《配列の留意点》

(1) 平易なものから難しいものへ

(2) 児童にとって身近なものから広がりのあるものへ

(3) 具体的なものから抽象度のあるものへ

中学校における取扱い

中学校においても、目標及び内容が2学年にまとめて示されている教科(国語・音楽・美術)については、片方の学年で重点的に扱ったり両学年で扱い確実な定着を図ったりする方法が考えられます。小学校同様、学校や生徒の実態に基づいて決定されるものといえます。

参考資料

『小学校教育課程編成の手引』栃木県教育委員会 平成13年2月

『中学校教育課程編成の手引』栃木県教育委員会 平成13年2月

『新教育課程実施に向けてのQ&A第2集』栃木県教育委員会 平成13年1月